第19回 ベストサービスアワード

≪ベストサービス賞≫ 川崎ラシクル 看護小規模多機能型居宅介護

その人らしく彩る ～看多機だからできたこと～

取り組み内容の詳細は次のページをご覧ください。

【取り組んだ動機】

三篠会ではじめてとなる看護小規模多機能型居宅介護（以下、看多機）は、通い・泊り・訪問のサービスを提供しながら、自宅での暮らしを支えるサービスである。3 つのどのサービスを利用しても、いつも顔なじみの職員が継続的に関われることや、ご利用者が住み慣れた自宅や地域で最期を迎えられるよう支援することが特徴である。今回、ご利用者の『最期まで自分らしく過ごしたい』という望みに応えるために取り組んだ 2 つの事例を、介護士 1 年目の 2 名の目線を通してまとめた。

【取り組み内容】

①H 様は、川崎ラシクルご利用前はホスピスに入所されていた。本人の希望は、「妻のいる自宅で最期を迎えたい」。家族の希望は、「眠るように最期を迎えて欲しい」というものであった。亡くなる 28 日前にご利用を開始し、体調が良い時には、他のご利用者と一緒に時間を過ごした。亡くなる 1 日前ご状態が悪化し、予定より早く往診に来てもらい、家族も同席し話し合った結果、「自宅へ連れて帰りたい」と希望された。そ 30 分後には、看護師 2 名が同行し、自宅へ向けて出発、麻薬の使用や病状の変化についてご家族のサポートを行った。ご自宅では、家族、親戚に囲まれて過ごすことができ、翌日に息を引き取られた。

②I 様は、おもに週 1 回の入浴のご利用であったが、ホスピスへ入所が決定し、川崎ラシクルのサービスも中止となった。その後、「自宅で最期を迎えたい」「川崎ラシクルに世話になりたい」という本人の希望があり、亡くなる 19 日前に利用が再開となった。以前の I 様からは想像ができない程痩せられていたが、「自宅へ帰るために、必死で食事を摂り体力を付けた」のだと家族から知らされた。疼痛緩和の為、しばらく川崎ラシクルで薬のコントロールを行った後に、自宅へ帰られる予定が決定した。以前から魚をさばく動画を見るのが好きで、魚の話をたくさん聞かせて下さることがあったため、自宅へ戻られる前に、本人の目の前で魚をさばくことを計画した。看護師・栄養士のサポートを受け、計画から 1 日で実施、I 様からさばき方の手ほどきを受けながら、笑いいっぱいの時間となった。そして、自宅へ戻られ 1 週間後、家族に見守られ息を引き取られた。

【授賞式での評価コメント】

看取りケアを行う施設は当法人にも多くありますが、川崎ラシクルは、当法人で初めての看護小規模多機能型居宅介護事業であり、在宅生活の中でご利用者の希望を叶えた看取りケアを行えた点が素晴らしいです。特に、本レポート2例は全く異なる背景と経過を経ており、個々に合わせたケアとなっています。 また、経験豊富な職員でも戸惑うことのある終末期に対して、入職後間もない職員が多職種と連携したチームワークを発揮しており、他施設の模範になるものと言える点が評価され、最終選考会ノミネートレポートに選出されました